怪我や事故への対応は慎重に!!

様々な教育活動で思いがけずにケガをしてしまう子ども。いないとは限りません。そんなときの対応について、あらかじめシミュレーションしておくことも大切です。何より子どもの安全を最優先に考えること。そんな当たり前のことが、時には出来ずに大きな問題へと発展することもあるのです。

さあ、怪我対応の基本形を確認しておきましょう。

○子どもの命と安全を守りきるために

ステップ１「まず安全管理の徹底を!!」

まず安全管理についてお話します。教室やその周辺、また学校全体を見渡して危険な箇所はないでしょうか。学期に一度、全教職員で点検表をもとに点検してはいかがでしょうか。

また、ＰＴＡ活動の一環として、点検していただくなどの工夫も大切。さらに、授業参観や保護者懇談会等の機会に、保護者の方にも安全についての意識を持っていただき、ご意見をいただくなどの機会を設けてはいかがでしょうか。

ステップ２「それでも怪我や事故が起こった時には」

まず初めに、怪我の状態を見極めることが大切です。場合によっては児童生徒に隣の教室や職員室に応援を求めに行かせることもありますよね。頭部を打撲する等して自分で立ち上がれないような状況では動かしてはなりません。すぐに１１９番、救急車を呼びましょう。

でも保健室で様子を見て判断することが多いですよね。判断に迷った時は大事を取ってお医者さんに診ていただきましょう。学校医に相談するのも一つです。

できれば保護者に一報を。受診先を指定される場合や、時には駆けつけていただける場合もあります。連絡の内容は慎重に。よほどのことでない限り、丁寧な説明で安心していただくことを第一に。あくまで念のためにということをご理解いただきましょう。

ステップ３「保健室で様子を見て、教室に帰した時の連絡は」

風邪による発熱などで、家まで送って行ったり、お迎えに来ていただく場合もありますよね。でも多くの場合は簡単な手当ての後、教室に戻します。その際、本人が「大丈夫」といっても、必ず保護者には連絡しておきましょう。学校で起こったことを知っておくことは、保護者にとってとても大切なことなのです。何より子どもにとって、家庭で様子を見ていただくことが肝心です。

ステップ４「保護者からのクレームも想定！！」

学校で、しばらく安静にして様子を見れば大丈夫、と判断し、その様子を保護者に伝えたところ「どうしてすぐにお医者さんに連れて行っていただけなかったのですか。もし何かあれば、責任を取ってもらえますか。」というように言われる場合もあります。

そう言うときに「学校医さんにも相談して判断しました。」とお話すれば納得していただけるもの。診断は学校ではできないということを念頭に置いておきましょう